

序 断片的ヴァイジョン (2)

大学闘争……に関する批評資料集《1969年9月》——マスコミ篇第1号(上・下)に続いて、《1969年1月》——マスコミ篇第2号(上・下)を刊行する。

いうまでもなく、過去の事実性に関する固定的な資料というより(ではなく)、情况的(周しつつ螺旋状に包囲運動していく(る)過程に関する表現かつ資料として編集している。

大学闘争とその深さを媒介する以降の諸状況をうみだしている波動の本源にあるものを(20年(へ)年という時間性の(へ)メヴィウスあるいはヒズミ(ウズを包囲しつつ、取り出し応用する作業の一環としてもこの資料集作成を行っている。

あらゆるものにふくまれている、69——情況(存在(モノ(ココロの転倒原理(微粒子(微波動(——情況的アマ・カムウツシ・マノスベシ。

情況の原点からのあらゆるテーマを抽出し、各時間域の本質を自在に抽出・応用・変換し、生きる、方法的仮装。

(科学(を比ゆとする現代文明への重層的*な問い——しかも全存在を賭けた問い。
*何に基いて発生し、どの方向へ重なっているか、その方向軸と重心部の濃密さを示唆する用語。(アマナの核力。そしてその実質は(アワ)。

「だれでも(いつでも)踊ってるんですよ。(南山大学で 土方巽。およそ(20)年前)耳をかすめるこの言葉のむこうへ いま、時のヒズミを駆けて出会う(少女(たちはま(言(う。

言語以前に また言語の前で
(舞踏(踊((踊る(り(として 存在を日々、あらゆる一瞬に自己組織(バリケード)する。より、獣や超古代の生き物としてのヒト、生き生きとカンを動かせ裸足で生きていた(る(、に近く、また、それらをも時のヒズミに包囲しつつ、(踊る(り(。

そのようにして とり出しうる原初的(情況的身(心)体(全存在性。——全歴史的身(心)体(全存在領域を一瞬ごとに包括して。

サンカーラー(脳の判断を生み出す無意識の第4過程の動き(の不可視の潜象過渡の動き自体を(踊り(る(として(全身心(にとり出す方法論。また、身体としての(。しかも、だれにでも可能な方法としてとり出されていることにおいて革命的。すなわち、出入り(刻々の意識(無意識の変化、はぐれを総て包括する身体(から)の眼(差し)。

1989年5月(仮装被告(団)

南山大学 ロゴスセンターおよび大学会館地下 《宣言》室 気付
(闘争)委員会 (連絡先の一つ)